

平成30年11月8日実施

平成30年度 滋賀の文化財講座「花湖さんの打出のコヅチ」第6回

彦根城跡外堀めぐりのポイント



彦根城跡の外堀は、今では失われてしまっていますが、江戸時代の古絵図と現地を比較すると、土地の高低差や水路、地割などに、その痕跡を見ることができます。

外堀を超えて城に近づく入り口は全部で7箇所あり、そのすべてが直線的に堀を越えるのではなく、堀を越えてから道を折り曲げて城に近づく、枡形（ますがた）を形作っていました。

1. 外堀跡

護国神社の鳥居前に堀の痕跡があります。外堀のうちで堀の形状が残っているのはここだけです。現在は水の無い空堀ですが、かつては水が張られていた水堀でした。

2. 切通口

野洲から彦根まで湖岸を通る朝鮮人街道（江戸時代、朝鮮からの使節が江戸に行く際に通った街道）が彦根城下町を通っていましたが、切通口は朝鮮人街道が外堀を超える入口です。堀を渡るところで道がコの字に曲がっていました。また、彦根市教育委員会が実施した発掘調査で、堀の石垣が検出されました。

3. 油懸口

堀を渡る道が2度直角に折れてクランクしており、交差する堀もまたクランクして複雑に絡み合っています。現在も道がまっすぐ通らず、屈曲しているのはかつて道がクランクしていたなごりです。

4. 外馬場公園

外馬場公園とその北に位置する駐車場はかつて堀だった場所です。駐車場と公園の西側には土塁が残っています。

5. 土塁跡

外堀の土塁が屈曲している部分です。特別史跡として追加指定されました。外堀の前で土地が南に向かって低くなっていますが、そこはかつて堀があった場所です。

6. 高宮口

南から来た朝鮮人街道が堀を越える場所です。直線的に進むのではなく、わざわざ道を屈曲させています。

ここから外堀は、現在は道路と重なっていますが、道路の北側の地形が低くなっていることや、水路が通っているのは、堀の痕跡と考えられます。

7. 池洲口

城下町のメインストリートである本町通りへとつながる入口ですが、堀を渡って直角に折れてから本町通りに接続します。

8. 南通用口

外堀を渡る7つの入口とは別に、堀を渡る入口です。他の7つの入口とは異なり、直線的に堀を渡ってそのまま道が直進しており、枡形を形成していません。外堀の防御をあまり意識していないことから、後の時代に追加で作られた入口かもしれません。

9. 中藪口

中堀を渡る船町口へとつながる入口です。やはり堀を渡って直角に折れてから船町口へと向かう道に接続します。

10. 船町口

中堀を渡る4つの入口の一つ。現在中堀、内堀は残っており、中堀より内側が特別史跡の指定範囲です。石垣で枡形を形成しています。

11. 大手口

内堀を渡る5つの入口の一つ。城下町のメインストリートである本町通りから中堀を渡る京橋口を経て城内に入る、城の正面入口です。

12. 登り石垣

彦根城は金亀山の山上に天守・本丸などの主要郭が集まっています。山の斜面に堅方向に築かれた石塁を登り石垣といいます。登り石垣の横には堅堀が掘られており、中世山城の堅土塁・堅堀と同じく、斜面の横移動を防ぐたての遺構です。彦根城には全部で5本の登り石垣があり、東西2本の大堀切と合わせて城の防御を固めています。